⑩ 日本国特許庁(JP) ⑪ 特許出願公開

# @ 公 開 特 許 公 報 (A) 平2-7479

®Int. Cl. 5

識別記号

庁内整理番号

63公開 平成2年(1990)1月11日

H 01 L 41/04

7342-5F

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

60発明の名称 圧雷素子

> 创特 顧 昭63-157054

顧 昭63(1988)6月25日 22出

70発明者 北升 法 男

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑪出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地

弁理士 星野

- 1. 発明の名称
- 2. 特許請求の範囲

圧電業子の電極材料に数径5mないし10mの金 属酸化物を配合させたことを特徴とする圧電素子。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は圧電振動子あるいはセラミックアクチ ュエータ等の接着剤を用いて電気的導通を必要と する圧電楽子に関するものである。

(従来の技術)

**従来の圧電券子について第3回および第4回を** 用いて説明する。第3回は従来例の断面図であり、 第4図は従来例を用いた圧電素子の貼合せ断面図 である.

第3回において、圧電素子1上に電極材料2 (焼付銀または無電解 Niメッキ)が処理されて/い る。第4図(a)は第3図に示す圧電素子1上の電 植材料2が滞金属板3に接着剤4を用いて貼合わ されている。第4図(b)は第3図に示す圧電影子 上の電極材料2が接着剤4を用いてパイモルフ状 に貼合わされている。このように構成された圧電 援動子セラミックアクチュエータに電圧を印加す ると変位を得ることができるものである。

(発明が解決しようとする課題)

上記のような構成では、圧電素子と薄金属板あ るいは圧電業子との貼合わせ面において接点が得 にくく電気的導通不良が生じ特性が安定しない欠 点があった。

本発明の目的は、従来の欠点を解消し、圧電素 子と帯金属板あるいは圧電素子との接着面におけ る接点を均一に増加させ、電気的導通を良好とし、 特性を安定させる圧電素子を提供することである。

(課題を解決するための手段)

本発明の圧電素子は、電極材料に粒径5~10mm の金属酸化物を配合させたものである。

(作用)

上記構成により、圧電楽子と薄金風板あるいは 圧電素子との貼合わせ面における接点が均一に増

加し電気的導通不良が生じるということがなくなり特性が安定する。

#### (実施例)

本発明の一実施例を第1図および第2図に基づいて説明する。第1図は本発明の圧電素子の断面図、第2図(a)は圧電素子と滞金属板との貼合わせ断面図、第2図(b)は圧電素子と圧電素子の貼合わせ断面図である。なお同図と、第3図および第4図の従来例の同一部分については同じ符号を付し、その説明を省略する。

第1図において、圧電素子1に粒径5~10mの 金属酸化物5が5~20%配合された電極材料2に 焼付あるいは無電解メッキ処理が施されている。

第2図(a)は第1図に示す圧電素子1および電 値材料2が薄金属板3に接着剤4を用いて貼合わ されている。第2図(b)は第1図に示す圧電素子 1および電極材料2を2枚、接着剤4で貼合わさ れている。

以上のように本実施例によれば、圧電素子と薄 金属板あるいは圧電素子との貼合わせ面において、 接着層は2~3 m 程度であり、圧電素子の電極面は5~10 m あるため、貼合わせ面の接点は確実に接触し、かつ接点は従来品に比べ増加するので電気的導通不良が生じることがなくなり、電気特性が良好となり、かつ安定する。

#### (発明の効果)

本発明によれば、電極材料に粒径 5 ~ 10 mの金 风酸化物を 5 ~ 20 %配合した圧電 業子を使用した圧電 援助子およびセラミックアクチュエータの 貼合 力せ面は 接点が確実に接触し、接点も増加するので電気的 導通が良好となり特性が安定し、その実用上の効果は大である。

#### 4. 図面の簡単な説明

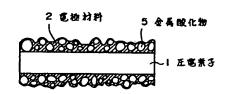
- 1 … 压電素子、 2 … 電極材料、
- 3 … 弹金属板、 4 … 接着剂、
- 5 … 金属酸化物。

特許出願人 松下電器産業株式会社

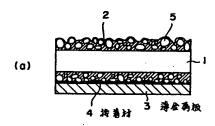
代理人 星野 恒

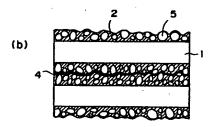


## 第 | 図

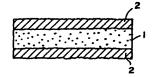


第 2 図





#### 第 3 数



### 窜 4 図

